

タロコ語の聴覚文理解：語順と態の効果

Auditory sentence comprehension in Truku Seediq

The effect of word order and voice

小野 創
Hajime Ono

津田塾大学
Tsuda University
hajime@tsuda.ac.jp

Keywords — Truku Seediq, sentence comprehension, auditory, word order, voice, ergative, absolutive, Austronesian, endangered languages

参考文献

概要

文処理研究の分野では、語順などの文の統語的性質が処理負荷に大きく影響することが知られている（例えば Frazier 1987, MacDonald 1994 等）。世界の言語の中で典型的に大多数を占める SO 言語（主語が目的語に先行する言語）では、目的語が主語に先行する語順で文が呈示された場合に処理負荷が増えることが観察されている（Bader & Meng 1999 等多数）。台湾の先住民の言語の一つであるタロコ語（オーストロネシア語族）は、SVO 語順に加えて VOS 語順も可能であり、VOS 語順が統語的基本語順とされている（月田 2009）。タロコ語のような OS 言語（目的語が主語に先行する言語）において、どのような語順に対する選好性が見られるのかを調べることは、人間言語の文理解における処理負荷がどこまで言語システムの特性なのか、それともより一般的な認知特性によるものなのかを明らかにする上で非常に興味深い（久保他 2015）。

タロコ語母語話者は、タロコ語による読み書きを日常頻繁に行うことは少ないため、聴覚で文を呈示し、文の意味（自然か不自然か）について判断してもらい、反応時間を計測した。ターゲット刺激文は全て他動詞文であり、語順（SVO/VOS）と態（Agent Voice/Goal Voice）を操作し、4 条件からなる 48 セットの刺激文を用意した。

タロコ語は他のオーストロネシア語族の言語のように非常に豊かな態のシステムを持つ。動詞が Agent Voice (AV) 形を持つ場合、動作主にあたる名詞句が主語位置に現れ、動詞が Goal Voice (GV) 形を持つ場合、被動者にあたる名詞句が主語位置に現れる。結果の概要として、GV_SVO 条件に対する反応時間が GV_VOS 条件よりも遅く、この言語では目的語が主語に選好する語順に対する選好性が見られた。反応時間のパターンと統語的操作の複雑性の関連についても議論する。

- [1] Fraizer, L. (1987). Theories of syntactic processing. In J. Garfield (Ed.), *Modularity in knowledge representation and natural language processing*. Cambridge, MA: MIT Press.
- [2] MacDonald, M., Pearlmutter, N., & Seidenberg, M. (1994). Syntactic ambiguity resolution as lexical ambiguity resolution. In C. Clifton, L. Frazier, & K. Rayner (Eds.), *Perspectives on sentence processing*. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- [3] Bader, M., & Meng, M. (1999). Subject-Object Ambiguities in German Embedded Clauses: An Across the Board Comparison. *Journal of Psycholinguistic Research*, 28, 2, 121-143.
- [4] 月田尚美. (2009). セデック語（台湾）の文法. 東京大学博士論文.
- [5] 久保拓也, 小野創, 田中幹大, 小泉政利, 酒井弘. (2015). カクチケル語 VOS 語順の産出メカニズム: 有生性が語順の選択に与える効果を通して. 『認知科学』, 22 (4), pp.591-603. 日本認知科学会.